

## 泌乳中後期にイネ WCS と粃米サイレージを活用した飼料自給率 51%のメニューを給与すると飼料費低減を図り乳量を維持できる

本県の酪農が今後も安定的に存続していくためには、国際情勢の影響を受けにくいトウモロコシサイレージや飼料用稲、飼料用米などの国産飼料の活用が重要です。

そこで当センターでは、泌乳中後期ホルスタイン種経産牛を用いて、イネ WCS、粃米サイレージ等を活用した TMR 給与試験（1 期 3 週間×3 期のラテン方格法）を実施し、乳生産性等への影響を検討しましたので、その結果を紹介します。

項目\試験区	対照区	飼料A	飼料B
<b>構成割合</b>			
トウモロコシサイレージ	31.9	31.9	26.6
イネWCS	-	11.9	12.0
イタリアンライグラスサイレージ	-	-	5.0
エンバク乾草	7.0	-	-
トルフェスクストロー乾草	7.2	-	-
粃米サイレージ	-	7.9	7.9
配合飼料他	53.9	48.3	48.5
粗飼料自給率 (%)	69	100	100
飼料自給率 (%)	31.9	51.7	51.5
<b>成分含量</b>			
TDN	70.2	71.1	70.8
CP	14.7	14.9	15.1
中性デタージェント繊維	36.9	32.7	33.2
糖・デンプン・有機酸類	34.3	41.1	40.0

飼料A＝粗飼料にトウモロコシサイレージとイネ WCS を混合

飼料B＝飼料Aのトウモロコシサイレージの一部をイタリアンライグラスサイレージに置き換え

対照区＝粗飼料にトウモロコシサイレージ、輸入乾草を用いた飼料

A・B飼料とも、飼料摂取量、乳量、乳成分において、対照区と同等の結果を示しました(表1, 2)。

項目\試験区	対照区	飼料A	飼料B
供試頭数	6	6	6
乾物摂取量	kg/日 26.5	24.1	25.8
乳量	kg/日 40.4	40.6	39.3
乳脂肪率	% 3.62	3.51	3.75
無脂固形分率	% 8.61	8.68	8.68



開封後の粃米サイレージ

また、第一胃内容液性状、血液性状に及ぼす影響はないことから、飼料 A、B とも、泌乳中後期の飼料として十分利用できることがわかりました。生乳 1kg 当たりの飼料費は、飼料 A 28.6 円/kg、飼料 B 31.7 円/kg となり、対照区 33.1 円/kg と比べ低減が図られ、コスト的にも輸入粗飼料より優れています。

ただし、トウモロコシサイレージ、イネ WCS 及び粃米サイレージを併給する場合は、糖・デンプン・有機酸類が高い飼料（飼料 A、B では 40%前後）になりますので、採食量や乳量の変化、反芻時間、牛の健康状態（糞の性状等）を確認してください。